

1.6. バンコク港入港報告

Report of Bangkok port

高須康介 栗田嘉有 林敏史 高橋恵子 萩田隆一 田中忠師¹⁾

¹⁾ 東京水産大学練習船

1 はじめに

東京水産大学練習船神鷹丸乗船漁業実習Ⅲ航海にて食料/清水/燃料補給としてバンコク港に入港(平成8年2月27日~平成8年3月3日)しましたので、寄港地の状況を報告いたします。

2 航海概要

- 1) 国籍: タイ, Thailand 2) 位置: 13 42.0'N, 100 35.0'E (概位) (図1参照)
3) 使用海図: 英国版 U.k.No.996,993 4) 使用時: U+7h
5) 代理店: Papaya Shipping Co.Ltd

38/11 Soi Anumanrajadhon, Decho Road, Bankrak, Bangkok

Tel. 001-662-2369511~2369512, Fax. 001-662-2360229, Tymex. BKKPP

Telex (86)84257 (84257 PAPAYA Th) Cable Address. PAPAYA Bangkok

- 6) 本船概要: GT936t, NetT280t, Loa60m, B10.6m, Df2.85m, Da5.50m, Crew67
2,100p.s. Diesel Engine 1 Single Screw (c.p.p), Speed 13.0kt, Call Sign JFCL

3 港の概要

チャオプラ(湄川)川港であり入港は全長 183m 奥水 8.2m 以内の船舶に制限されている。港外には魚棚が、多く掘り下げられた航路以外の航行は困難である。また、航路自体も狭い。検疫錨地(Bangkok Bar) Pilot station から上流のクワトイ港(Klongtoi west quay 22A) 接岸まで距離 26.7miles 所要時間 3時間 7分であった。岸壁はクワトイ港最も奥の Port Authorities 前であった。接岸中は川流が強く、またボート通過時の波でも本船が揺れるほどであった。

4 気象海象

風及び天候は、錨地では南及び南東の風 風力 4 入港中は南南東から東南東の風、風力 1 であった。潮流には、潮流と川流があり 0.5~3.5kt の流速(水路誌)があるとされ、今回(2月)は南流 0.5kt であった。入港中潮汐は、1日 2回潮で最大潮高差は 203cm であった。また、河川による喫水変化は約 7cm であった。

5 連絡事項

打電しておいた ETA(24 時間前(無線検疫許可申請含む)に Port Authorities 及び Harbour Master 宛に Inmarsat Telex 通報 Agent 宛に Telex 送信)に VHF16ch から呼び出しがあり Bangkok Bar より上流まで自航した後、水先人乗船(粗品贈呈) 検疫官及び税関 3 名は河口(ハクム)から乗船。税関持参の Arrival Report 記入し入港書類をチェック後、通関書類証明書発給にて終了。(ウイスキー及びたばこ要求があった。)

6 水先人 タグボート

水先は強制(pilot: Mr.LCDR T.THANSUWANWONG Mr.CHAIYOT T)で Tugboat (No.90(入港時)および No.99(出港時)左舷 1 隻)を配備した。

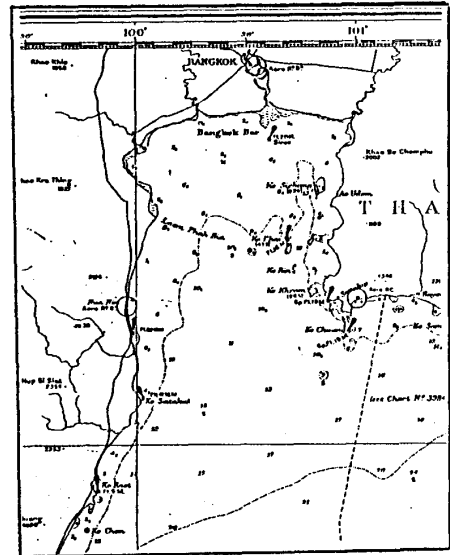


図1. U. k. No. 996 (英国版海図)

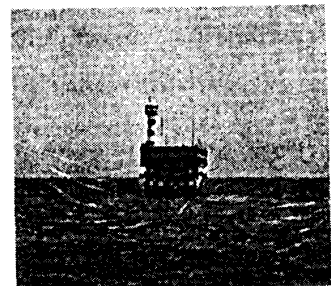


Photo. 1 Bangkok Bar
(Pilot Station)

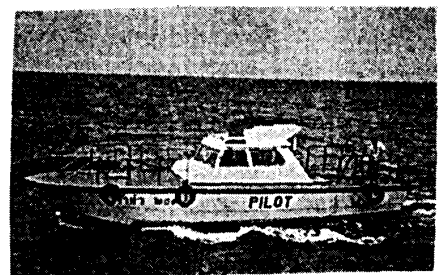


Photo. 2 Pilot Boat

7 錨地 (Bangkok Quarantine Anchorage 底質 Mud)

前日 Bangkok Bar 沖(水深 11.2m)に錨泊, 投錨時刻をパイロットステーションに報告した。

8 入出港前後作業等

Agent5, Customs3, Immigration2, Quarantine1, Agent (中国系) 乗船, 各手続き両替等支払い: 日本円 (為替証明書あり) 出港前日に支払日とした。但し Cash Advance はバーツであった。 *バーツは, 約5円であった。

船底シチェスト: 2カ所にスレーナ (かご型) 潜水夫にて取付作業 (有料) を行った。

保安員: 代理店の要望で保安員 (警察及びガードマン計4名) を交代でつけた。

船食(ship chandlers): 数量種類が, 発注内容と異なるなどチェック必要であった。

ゴミ: ゴミ収集車が毎朝巡回しており, 呼び止めることによりゴミ廃棄を行った。

清水および燃料: バーツ および水船にて供給

出港手続き: Immigration1 来船 List of Name に全員自筆サインが必要であった。

9 その他

交通事情 港内専用のタクシーあり1名 20バーツ程でゲートまで利用できた。

市街ではタイ語しか通用しないため, 交通機関利用時は用紙にタイ語で目的地 (帰船時のゲート名) を掲示する必要がある。

病院事情

症例1 目に異物が混入した為, タクシーにて夜間救急病院にて診察を受けた。

処置は, 目の洗浄を行い薬添付後眼帯にて終了した。塗り薬支給され診察料及び薬代は, 計454バーツであった。

昼夜間病院: *Bangkok Adventist Hospital* Tel 2811422, 2821100 英語可
(Christian Medical Foundation of Seventh-day Adventist)

430 Pitsanuloke Road Dusit Bangkok 10300 Thailand

症例2 虫歯が痛むため総合病院の歯科に午前中電話にて予約し, 午後診察を受ける。処置は歯周辺レントゲン撮影後手術必要と診断され日本での処置を希望した為, 神経抜き及び痛み止めと化膿止め薬にて処置終了した。金額は計1,000バーツであった。

総合病院 (昼間): *Bangkok General Hospital* Tel 3180066 日本語可
New Petchburi Rd 知ト駅近く 17:00-20:30 平日 9:00-17:00 土日

10 あとがき

バンコク港のような川を遡って入港することで生じる奥水変化計算などの必要事項は運用学的に学生の実習教育に大きい効果があった。また, 船底に付着した貝類等を死滅させる等, 船体保守や航走速度upの利点もあった。しかし, 上流から流れてくるゴミ類は多く, 冷却用海水の取込口のフィルター類はかなり汚れていた。

寄港中保安員は, 他の外国船舶も利用しておらず特に必要性はなかった。また治安上の危惧があったが, 過去のトラブル事例を周知させたためか問題はなかった。SEAFDEC 訪問, OB 会やバス見学/交流など学生にとってはハードスケジュールであったが国際感覚を身につける一つの機会となったと思われる。

参考資料

PORT OF GUIDANCE, 南シナ海水路誌, 東京水産大学海鷹丸バンコク寄港資料

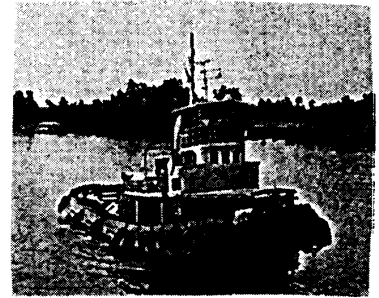


Photo. 3 Tug boat

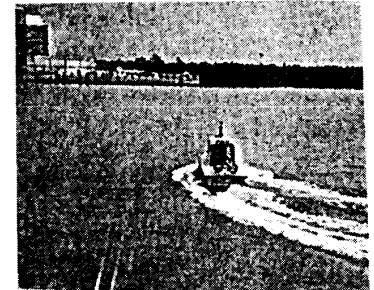


Photo. 4 Custom Boat

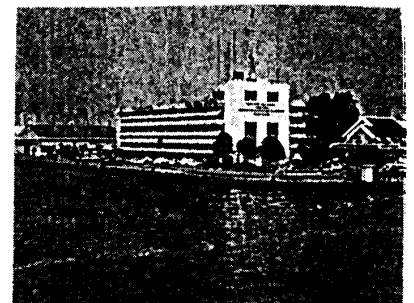


Photo. 5 Klontoi West Quay No. 22A